

# 東日本大震災被災地 派遣職員の活動報告

市では、東日本大震災における被災地の復旧・復興支援のため平成26年度から長期的に職員を福島県双葉郡浪江町に派遣して支援活動を行っています。このページでは、被災地での支援活動に従事している職員からの活動状況を紹介します。

派遣職員：平井 智子

派遣先所属：福島県双葉郡浪江町産業振興課

派遣期間：平成28年4月1日から（2年間）



## ◆派遣業務の内容

〔観光・産品振興〕

①野馬追祭、十日市祭の実施、②観光パンフレット作成、③県内外での特産品PR

〔事業再開・帰還促進事業〕

①帰還時必要物品等に係る割引事業、②プレミアム付商品券事業、③集客効果を高めるイベント事業など

## ◆派遣業務の現況

今年度実施しているプレミアム付商品券事業については、実施方法の策定から担当し、平成29年7月1日から平成30年1月31日まで継続的に販売しました。町内での消費喚起を促進するとともに、商品券を買いに来られた町民の皆さんと接することで、町の人の思いを知ることもできました。

「毎月第2土曜・日曜日のまるしえの日」や「夏まつり」、「秋まつり」は仮設商業施設、「なみえライトアップ事業」、「初日詣イベント」は青年会議所、「相馬野馬追祭」は標葉郷騎馬会、「十日市祭」は商工会それぞれ皆さんと相談しながら企画・実施し、復興に力を注ぐ浪江町職員や、町民の皆さんと一緒にさまざまなアイデアをどんどん形にしていく中で、皆さんのパワーを感じながら楽しく充実した毎日を過ごしています。

## ◆復旧・復興状況や被災地での様子

平成28年4月から浪江町本庁舎で勤務していますが、来たばかりのころは震災後手つかずの状態のところが多く、時間が止まっていたかのようなものでした。夜7時から朝7時までの夜間滞在も制限されており、夜はどこもかしこも真っ暗でした。平成29年3月31日に町域の約3割で避難指示が解除されました。避難指示解除に先立って2月25日には、大漁旗を掲げた26隻の漁船が次々と請戸漁港に帰港。4月1日にはJR常磐線の小高～浪江間の運行再開により仙台まで行けるようになりました。

災害公営住宅や公的賃貸住宅も整備され、入居者が増えてきています。また、今年4月からは小中併設校およびこども園の再開を予定しています。

金融機関や飲食店を含む民間事業所の再開も徐々に増えており、毎月開催している「まるしえの日」や7年ぶりに町内で開催した「十日市祭」など町内でのイベントにも多くの皆さんが来場し、町にどんどん活気が出てきています。また、農地については、農事復興組合により除染後の農地の保安全管理が行われており、一部の農地では平成26年度から水稻実証栽培が実施され、昨年は10トンの米を収穫し、そのうち5トンが販売用として出荷されました。

これから、中心市街地の再生、請戸漁港の復旧と漁業施設の整備、産業団地への企業誘致、情報発信拠点施設（道の駅）整備やイノベーションコースト構想関連施設整備など計画されています。未だ避難指示が解除されていない地域については、除染も進んでいませんが、復興拠点の整備をする計画もあり、また、避難指示が解除された地域については、避難指示が解除されたからこそ、復興に向けてハード、ソフトともにさまざまな事業が進められる、まさにこれから、職員の確保が必要だと感じています。

## ◆派遣職員として従事した感想

浪江町では、産業振興課での業務を行う以外に、人との関わりについても貴重な時間を過ごさせていただきました。復興庁をはじめ国との協議や、派遣で来ている国・県・他自治体の職員の皆さんと協力しての事業実施、意見を交わしながら親交を深めることもできました。もちろん、浪江町職員の皆さんにも、まるで元から浪江町の職員であるかのように接していただき、いろいろな付き合いの中で、大切なつながりを持つことができました。